

建設防災 ボランティアニュース 第 54 号

目次

- ・ 新春の御挨拶
- ・ 普通救命講習会
- ・ ミニツアー研修会と施設見学会
- ・ きたなん塾
- ・ 後期道路施設点検その他

新年を迎えて

皆様、新年明けましておめでとうございます。それぞれよいお年をお迎えのことと存じます。



杉浦会長

昨年は、震災こそ 11 月の震度 6 弱の長野県北部地震が目立つ程度でしたが、8 月の広島土砂災害では 74 名、9 月の御嶽山の噴火では 57 名が犠牲になるなど、改めて日本列島が自然災害の高いリスクにさらされている事を如実に認識させられた 1 年でした。

また、政治面では暮れのいわゆるアベノミクス解散による総選挙で、自公政権が信任を得た結果となりました。そして、舛添都政の 1 年は、オリンピックに向けた都市外交の活発化と施設整備計画の見直しが大きな注目を浴びました。しかし一方、舛添知事は災害への備えも強調し、東京都国土強靱化地域計画(仮称)の策定に着手するなど、防災が引き続き都政の最重要課題であることを改めて明確にしております。

このような情勢の中、我々東京都建設防災ボランティア協会員は引き続きいつ起こるかも知れない震災対応への心構えを忘れず、定常的な活動を着実にやっていく事が大切であり、協

会の責務であることは言う迄もありません。またそれが、現役時代と変わらぬ使命感を持つ協会の共通した想いであると考えます。

どうぞ、引き続き協会活動への積極的ご参加ご協力をお願い申し上げます。

本年が平穏で安定した 1 年であり、皆様にとって良い年でありますよう祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。

会長 杉浦 浩

普通救命講習会開催

普通救命講習会を新宿消防署で開催しました。10月16日(木)は、既に技能認定証を所持している会員を対象に、救命技能の維持向上を目的とした 3 年に 1 回の講習で 12 名が参加しました。続く 22 日(木)には、初めて受講する会員を対象に 8 名が参加しました。お忙しい中、実技を伴う中身の濃い講習を熱心に受講していただきありがとうございました。

担当理事 二宮克弘



初回講習者実技

～応急手当の必要性を実感～

10月16日午後、普通救命再講習会に参加してきました。新宿消防署に対象者12名が集合し、3時間弱の再講習を受け無事終了しました。

3年前に初講習を受けているということで、講習はテキストの内容を確認することから始まり、テキストの変更点などの説明がありました。人形を使用して心肺蘇生やAEDの使用手順を確認しながら、繰り返し練習します。仕上げに、二人ペアになって心肺蘇生とAED使用の連携を確認しました。

手順を飛ばしたり、間違えたり、悪戦苦闘しながらも、皆さん熱心に取り組みました。3年ぶりということで、忘れてしまっていることも多々あり、再講習の有効性を感じました。受講者が、全般に気持ちだけは若いが高齢者だけに、消防署講師の方には、辛抱強く懇切丁寧にご指導いただきました。



再講習者の悪戦苦闘

ところで、御嶽山の噴火で友人を一人亡くしました。噴石の直撃を受けたようです。大災害を目の当たりにして、応急手当の必要性をあらためて感じています。

その場では気づかなかったのですが、風呂に入ったら、左手の根元が沁みて皮がむけているのに気が付きました。人形の胸を繰り返し強く圧迫した際にできたものでした。

担当理事の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

一建班 古川俊明

勝どき橋ミニツアー研修会開催

今回で10回目となる研修会が、11月11日(火)に、東京都・東京都道路整備保全公社及び当協会からの計46名の参加のもとに開催されました。

その次第・内容等は井上幸夫さんからの報告をご覧頂きたいと思いますが、特に、急きょ講師を依頼したにもかかわらずお引受け頂きました「橋の資料館」の井上館長には、厚く御礼申し上げます。また今年度は、ツアーのマスコミの同行取材も多く、その概要も公社から紹介されました。

勝鬨橋下流に整備中の「築地大橋」の開通、築地市場移転とその跡地のまちづくり等で周辺的环境はここ数年で大きく変わります。勝鬨橋は、新しい街の中で重要文化財としての存在価値がこれまで以上に高まり、取材も多くなると思います。マスコミでミニツアーが取り上げられることは、ツアー参加者の増加が期待されるとともに、担当する私達にとってやりがいともなり、今後とも一層の協力をしていきたいと思っております。

1月22日からは、1班5名、計12班で担当する案内も第37巡の活動に入ります。引き続きミニツアー担当会員のご協力をお願い申し上げます。

担当理事 堀中 逸

～説明力向上の絶好の機会～

勝どきミニツアーガイドに、私は平成23年から参加しておりますが、今でも緊張してお客様と応対しております。年々記憶力が落ち説明が曖昧にならないか、説明がつまらないかなど、いつも不安に思っております。この研修会はそうした私にとりまして絶好の機会でありました。

さて、研修ですが、最初に杉浦会長から挨拶があり、ミニツアーを開始した平成17年5月以来、参加者の事故もなく好評であると、この10年間に振り返りました。勝鬨橋は75年前、先輩が心血を注いで築造され、ここで隅田川の第一橋梁(最下流の位置づけ)を「築地大橋」に譲ることになるが、今でも晴海通りの重交通を担い、重要文化財でもある橋梁でもあり、一人でも多くの人に見てもらいたい、ツアーガイドは誇りある仕事であると締めくくられました。

(本当に同感です)

川合道路保全担当部長は、勝どきツアーは防災ボランティアなくしては実現できないものであると感謝の意を述べられました。東京都は現在、橋梁の耐震化事業や長寿命化事業を推進しているが、隅田川では白髭橋、吾妻橋、蔵前橋など6橋で長寿命化事業を展開している。その一つである勝鬨橋は、重要文化財であることから改修の際には文化庁との調整が必要であることや、さらにオリンピック開催に合わせた開跳にも感心がもたれていることなど、ツアー参加者に思わず話したくなるような興味あるお話を聞かせていただきました。

最後に挨拶に立たれた道路整備保全公社の東常務理事からは、ツアーは公社が公益事業として行っているが、道路管理部、第一建設事務所そしてなにより防災ボランティア協会の協力なくしては成り立たないと謝意を述べられました。最近、マスコミ取材が増えたことに触れ、「テレビ番組の放映でさらに知名度が上がった。築地大橋の開通で臨海部への外人客も多くなる。今後は土木遺産ツアーも企画したい」と今後の抱負を述べられました。

研修に移り、最初に、平成25年度の案内実績報告が公社公益事業担当の玉置係長から、参加者アンケート結果をもとに説明がありました。ツアーは平成17年度から累計で1147回開催し、約6700名が参加、お褒めの言葉が圧

倒的に多いとの説明に思わず頷いてしまいました。マスコミ取材の紹介では、TBSの「お得ただで遊べる見学ツアー 東京の中心重要文化財に」と題する録画ビデオを見せていただきました。ビデオの中に新井理事が登場しその流暢な説明には、「さすが一理事！」の声も聞こえてきました。なお、ツアー関係でテレビ放映された他の番組についてもDVDに収録してあるので、ご希望の方に貸出もするそうです。(勉強したい方、どうぞご利用を)



研修会の様子

続いて、かちどき・橋の資料館の井上館長から「橋のあれこれ」と題してカラー写真の資料を使い、約50橋を様々な角度から紹介していただきました。橋が架けられた歴史的・地理的背景や、古橋から最新の東京ゲートブリッジまで技術的推移についての説明など、今後のツアーガイドでも使えそうな内容が盛りだくさんで大変参考になりました。

最後に、新井理事よりツアーの新しい案内者の紹介がありました。皆様のご活躍を祈念しております。

意見交換会は、会場を都庁第二庁舎4Fに移し、道路管理部、第一建設事務所、道路整備保全公社の幹部の方も参加、盛大に執り行われたことをご報告します。



意見交換会

南西建班 井上幸夫

～勝鬨橋見学記～

(編集部注：9月18日に建設局OBでもある浦山齊さんの御紹介で下水道局OBの方々ミニツアーに参加されました。その際いただいた感想文です。)

東京都下水道局OBの親睦団体(睦水会)の研修会として勝鬨橋の見学を行いました。

橋脚内部の開閉装置と設置場所を見ることが出来るとのこと。また、会の企画担当幹事からの案内状は、定員わずか18名の人数制限で抽選により選ぶなど、プレッシャー付の内容でしたが、早速申し込んだ次第です。

見学の最初にヘルメット・手袋着用、この他に普通の現場見学と違って安全装置のハーネス型安全帯を着用、ますます期待が膨らみます。

「かちどき 橋の資料館」の中で、まずビデオで橋の概要のレクチャーを受け、その後2班に分かれ勝鬨橋の上に出ます。人・自転車の通行する歩道を一列に進行、ガイドをしてくれる東京都建設防災ボランティア協会の方々前後をガードし、注意力の落ちた我々にも安心感がありました。

橋上の中央部で跳開部分の実物を見ながら説明を受けます。大型の自動車が通る度にかなり揺れていることが分かりました。普段は見向きもしない橋の様子に改めて注目、塗装の剥がれ・錆・亀裂など全く見受けられなく、万全の保守管理がうかがえます。

次に橋脚上の運転操作室の見学、高圧電流を扱う場所としては「狭すぎる」が最初の感想、設備がぎっしり並び絶縁隔離が少ない。古色蒼然たる運転台・配電盤などに目がひきつけられます。しかし、電気職のOBからは当時の進歩的技術の採用に驚きの声が上がっていました。

いよいよ橋脚の中に入ります。下りはタラップ梯子、慣れた下水のマンホールの上り下りと同じ、ハーネスにカラビナを装着して下ります。体重100Kg以下・スカート不可の見学条件が良く分かりました。

内部は一見広くがらがる感じ、持ち上げる跳開本体は950tとバランス対応の重りは1050tの合計2000t、この巨人を動かす歯車・シャフトなどは思ったより小さく整然と並んでいました。単純なシステムなのでそれぞれの部品の役目や動きの説明で良く分かりました。



再び橋詰の広場に集合し追加の説明と質問(内容は耐震・電気・ブレーキ装置など)。とくに基礎構造は直接「はしの資料館」館長から川底近くに堅固な地盤があつて大幅な工事変更を強いられたなど詳しくお話して戴きました。工事費が高い事については現代の重機使用と人力主体の工事では比較が難しいなどに落ち着きました。

日常には見る事の出来ない歴史的橋梁の内部、今回の研修参加者一同、このような見学案内をボランティアで実施している建設局OBの皆様に、心から感謝し、敬意を払いたいと思うものです。

なお、ガイド役の方々とも、面識のあるメンバーが多数おり、良い意味でリラックスと親近感のある見学になりました。



見学に際して色々と手配していただいた方々、現場で説明・援助していただいた方々に心より御礼申し上げます。

東京都下水道陸水会 小沼敬一

施設見学会に最多56名が参加

今年度の施設見学会は、環状第2号線事業のうち、五建所管の「築地大橋」、一建所管の「勝どき陸橋」、「黎明大橋」の工事現場と、供用開始した「築地虎ノ門トンネル」を車中から見学する企画でしたが、予想を超える反響があり平成20年度以降最多の56名（当初申込64名）の参加となりました。

平成26年11月19日（水）午後1時、一建内の説明会場（入札室）において、当協会の新井副会長の挨拶で始まり、安部一建所長のご挨拶を頂いた後、一建の橋本環二工事課長からパワーポイントを駆使しての環状第2号線の事業説明、五建の小野寺橋りょう建設課長からはVTRによる放映を挟みながら「築地大橋」の工事説明がありました。

午後2時5分にチャーターしたバス（大型1台、中型1台）に分乗し一建を出発、午後2時20分から工事現場を見学しました。

今回は参加人数が多いことから五十音順に二班に分け、第1班は一建の安部所長、橋本課長、福寫課長補佐、環二工事課職員の皆様の案内で「勝どき陸橋」及び「黎明大橋」の工事現場を見学、ついで「築地大橋」に移動し、五建の伊佐所長からご挨拶を頂いた後、小野寺課長、長尾課長補佐、橋りょう建設課職員の皆様の案内で工事現場を見学しました。一方、第2班はその逆のコースで見学しました。



第1班築地大橋集合

午後4時前には第1班、第2班とも現場見学を終了、チャーターしたバスに分乗し「新虎通り」の「築地虎ノ門トンネル」を車中から見学して、予定通り午後4時半にJR東京駅丸の内口に到着、解散となりました。

施設見学会を実施するに当たっては、一建及び五建の皆々様方には本当にお世話になりました。参加した会員の気持ちは感謝、感謝、感謝であったと思います。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

有難うございました。

担当理事 藤田 進

～環2事業の進行を眼で見たい～

11月19日（水）、東京都建設防災ボランティア協会の施設見学会が行われ参加した。見学会のご案内を頂いた際、施工中の「築地大橋」と「黎明大橋」とあり、是非参加したいという強い思いで応募した。それというのも私自身、前

職の（公財）道路整備保全公社において、環状第2号線の事業に多少なりとも関わっており、その進捗などを自身の眼で見たいという動機が湧いたからである。

関係した内容の一つは、「築地虎ノ門トンネル」として、今年3月末に供用開始したトンネル部の工事監督補助業務を公社で行っていたこと。二つ目がこの「築地虎ノ門トンネル」を公社が管理受託しているが、その際、一建さんはじめ関係各方面と協議・調整していたこと。三つ目は、勝どき五丁目付近の600世帯を超える大型マンションの用地取得を受託していたことなどである。

このようなことがあったため、当日は朝から見学が待ち遠しく、好天に恵まれたこともありカメラ持参で参加した。最初、第一建設事務所に集合。会議室にて、安部所長のご挨拶、その後、橋本環二工事課長から汐留・虎ノ門区間及び晴海・汐留区間の両区間合せて約3kmの環状第2号線の工事進捗状況並びに黎明大橋の工事概要、続いて第五建設事務所・小野寺橋りょう建設課長からは、築地大橋の工事概要並びに進捗状況など見学に必要な事前の説明があった。

その後、バス2台に分乗し現場に向かった。今回は多くの会員の参加があり、現場は二班に分かれての案内であった。私は、初めに「築地大橋工事」の現場を見学した。そこでは、第五建設事務所・伊佐所長から冒頭のご挨拶があり、会員を温かく迎えてくれた。「築地大橋工事」は隅田川に架かる第一橋梁となるため、設計の当初からデザインを含めて、多くの専門家による委員会などを経て決定したこと。また、架設にあたっては、航路閉塞などにより、大型クレーンにて3分割・一括架設、その後のアーチ橋としての機能を持たせるためのミリ単位の調整、溶接作業など技術の粋を集めて今に至っていることが紹介された。工事は、現在、床版の

防水工事が盛んに行われており、その後、さらに上部仕上げ工事を進め、27年度中の完成を予定しているとのことであった。



第2班黎明大橋集合

その後、班が入れ替わり、私は、「勝どき陸橋工事」「黎明大橋工事」の見学に向かった。工事は、私の想像を超える進捗で、先ほどのマンション部分の桁架設も進んでいた。また、この陸橋部分は、計画の経緯や運河などがあったため、カーブも多く複雑な橋梁構造となっており、現場での苦労が伝わってきた。

最後に、黎明大橋工事において、計画・設計段階並びに現場での工夫や苦労話など工事の概要説明を聞くことができた。現在は床版が出来上がっており、その橋上に立つと、黎明大橋から晴海側の豊洲大橋に向かっては、ほぼ完成形の姿を見ることができ、2020年のオリ・パラに向けた環状第2号線の全体状況が把握できたところで見学会を終えた。



黎明大橋橋上から豊洲大橋方面を望む

終わりにあたり、見学にあたってお忙しいところ親切に対応してくださった、一建安部所長、並びに五建伊佐所長はじめ両事務所の方々に

深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

環状第2号線が2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、つつがなく進捗すること、また現役職員皆様の益々のご活躍を祈念いたしまして報告とします。

六建班 米沢彰三

「きたなん塾」に参加して

北多摩南部建設事務所は6年前から事務所独自の研修を実施しております。9月10日今年度三回目の研修として「職場をフォローすると同時に、若手の将来を視野に入れた育成を行う」ことを目的に私たち防災ボランティア会員6名（柿塚至、池田繁敏、小島信之、内山一夫、舛原邦明、新川 彰）をお招きいただき、東京都時代の話を通して、業務の難さや体験をお知らせすることで、入都1年から3年程度の若手職員の研修としました。

業務が忙しい折ではあったが、谷本所長を始め多くの方々（50名以上）に集まっていたいただき、2時間弱の短い時間ではあったが、現役時代の思い出など多くを語らせていただいた。



豊富な経験を語る協会員

「10年後の東京」にも載っている街路樹100万本植栽計画などから「都道の街路樹について」、「河川の整備について」、「JR中央線の連続立体交差事業などについて」、「道路の占用に

ついて」などのテーマに話が弾んでいった。

特に、JR中央線の連続立体交差事業については、事務所には直接関係がない話ではあるが、国家的事業であるにも関わらず「東京都建設局」であるから成しえた事業であること。政治的に国会・都議会・市議会の『三多摩格差是正』の動きの経緯など、様々なことが語られた。

東京都の「危機管理」事例でも、JR中央線の通信ケーブルの切り替えに際しての事故対応などなまなましい話もあり、多岐に渡っての多くの経験や若手職員の鋭い質問など実の濃い研修会であったと考えている。今後も「建設局のOB」として出来るだけ協力することを約して塾を閉じた。

「きたなん塾」に防災ボランティア会員を呼んでいただいた谷本所長、「きたなん塾事務局長」の黒木補修課長さん、ありがとうございました。

北南建班 新川 彰

後期道路施設等点検

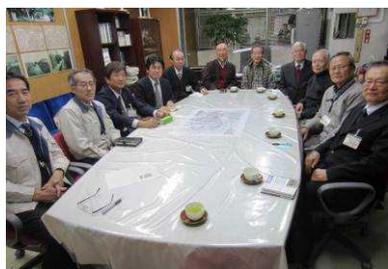
後期「道路の施設とバリアフリー点検」が10月6日から12月5日の期間で実施され、協会員59名が参加しました。おかげさまで今年度の道路点検も無事に終了しました。参加された皆様方に感謝するとともに、来年度もよろしく願いいたします。

実施状況

事務所	実施日	参加協会員
一 建	11/27	2名
二 建	11/6	4名
三 建	11/4・7・13	9名
四 建	11/18~27	11名
五 建	10/30~11/6	5名
六 建	11/6・10・13	3名
西 建	11/14~28	6名

南東建	11/21	6名
南西建	10/6～12/5	8名
北南建	10/27・11/5・12	3名
北北建	12/4	2名
計		59名

担当理事 久保田元久



三建班点検当日と後日の懇談会



南東建班集合



北南建点検中

新規会員の紹介

総会以降に下記の方々が入会されました。

柳川宣彦さん（三建班、砂防ボ、ミニツアー）

柴田賢次さん（南東建班）

加藤昌宏さん（四建班、ミニツアー）

遠藤正宏さん（四建班）

青木 浩さん（五建班）

よろしくお願いいたします。

訃報

去る12月6日に西建班でミニツアーも担当された、高橋康夫（66歳）さんが御逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

担当理事 藤田 進

※ 協会からのお知らせ ※

- ① 前号で小森和雄さんの所属が「東部公園班」となっていました、正しくは「西部公園班」でした。お詫びして訂正をさせていただきます。
- ② 今年度の初動対応訓練は2月9日（月）に予定されています。参加方よろしくお願いいたします。
- ③ 皆さまの活動の報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事まで連絡いただくか、直接林 (mikio.hayashi@okumuragumi.jp) まで原稿を送付いただければ幸いです。
- ④ 当協会のホームページアドレスは <http://tokyo-adv.info/> です。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

